

# クリティカル・フォルマリズムの可能性

—フォルマリズムとリアリズムの葛藤のなかで—



『佐賀県歯科医師会館』

# 坂本一成氏

建築家 / アトリエ・アンド・アイ主宰 / 東京工業大学名誉教授

## 2020.11.16 (月) 13:15 ~ 15:15

対面・オンライン同時開催

会場 (在学者のみ参加可) : 関東学院大学 SCC館4階 ベンネットホール

オンライン開催 (zoomウェビナー/誰でも聴講できます)

以下のアドレス・QRコードからご参加ください (最大500名)

<https://kanto-gakuin-ac-jp.zoom.us/j/81896386429>



### 講演会概要

近年、建築がより施設化しており、更に社会・公共性を強く求められていると思われまふ。私的な施設である住宅に対しても、このような傾向がみられます。建物が施設として利用され、社会に役立つことは当然でしょうが、しかし、これらのことをことさら強く求められることに違和感を感じています。

使用用途に供され、現実的に利用されるというプラグマティズム的建築は一つの建築の姿ですが、このことが強調され過ぎることからは、建築が本来持ちえてきた「建築性」とも言うべき「形態や空間」の概念性、理念性という文化性を失いかねないことが危惧されます。

「施設化」や「公共・社会性」は「リアリズム」を根拠とし求められます。それに対して理念や理想は、人間存在の文化的な可能性から求めることとなります。建築にとって、その理念や理想は「形態や空間」を操作する「フォルマリズム(形式主義)」によって成り立つと考えられます。しかしこの「フォルマリズム」も行き過ぎると造形化し過ぎることで、リアリティーを失います。

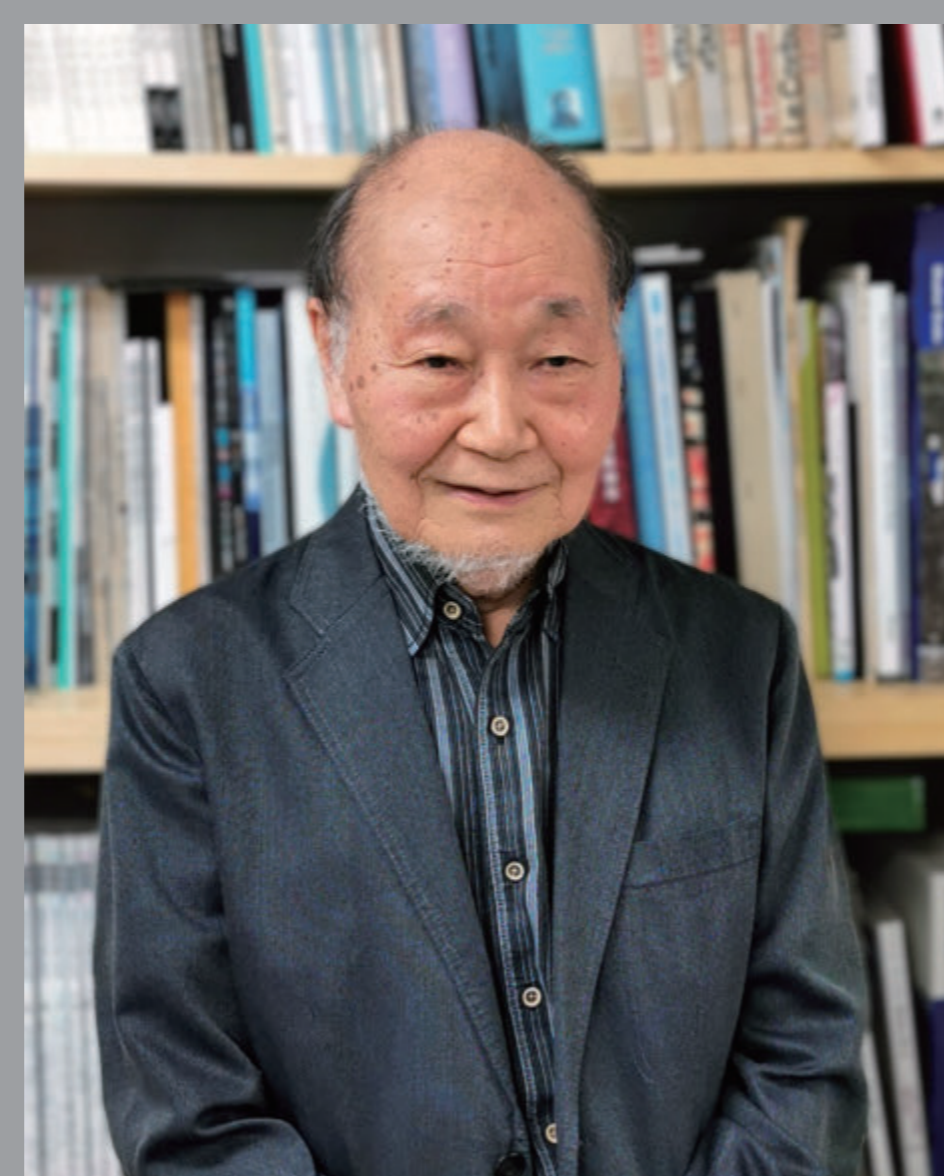
建築はこの「リアリズム」と「フォルマリズム」の葛藤の中で歴史的に存在してきたと言えます。それゆえ当然この両者は建築に内在し並存するわけですが、往々として両者はイデオロギー的に対立的な関係に位置付けられてきました。特にイズム化して強調されればされるほど、建築を意味的に矮小化します。行き過ぎたリアリズムは建築を施設化し、行き過ぎたフォルマリズムは建築を彫塑化します。

今回のレクチャーでは、この「リアリズム」と「フォルマリズム」の葛藤のお話をするようになります。「クリティカル・フォルマリズム」とは文字どおり「批判的形式主義」を意味します。私の建築が「フォルマリズム」を前提とし、それをいかに「リアリズム」によって相対化してきたか、そしてそこに建築や空間的環境の可能性をどのように求めてきたかを私共が設計した建築を通して述べたいと思います。(坂本一成)

主催：関東学院大学 理工/建築・環境学会



『House SA』



### 経歴

- 1943年 東京都生まれ
- 1966年 東京工業大学建築学科卒業
- 1971年 東京工業大学大学院を経て武蔵野美術大学建築学科専任講師  
アトリエ・ハウス 10 開設
- 1983年 武蔵野美術大学助教授を経て東京工業大学助教授
- 1991年 アトリエ・アンド・アイ 設立
- 2009年 東京工業大学教授を経て同大学名誉教授  
現在 アトリエ・アンド・アイ 坂本一成研究室主宰

### 主な作品:

- 「House F」「コモシティ星田」「egota house」「東工大蔵前会館」
- 「宇土市立網津小学校」「佐賀県歯科医師会館」「常州工学院国際交流センター」

### 主な著書:

- 「住宅-日常の詩学」(TOTO出版)「建築に内在する言葉」(TOTO出版)
- 共著に「建築家・坂本一成の世界」(LIXIL出版)